

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471903128
法人名	株式会社 有愛
事業所名	グループホームゆう愛
訪問調査日	令和2年11月19日
評価確定日	令和3年1月14日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	14070903128	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	株式会社 有愛			
事業所名	グループホームゆう愛			
所在地	(238-0014)			
	神奈川県横須賀市三春町1-9-34			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和2年度10月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年1月27日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通量が少なく落ち着いた市街地にあり、交通の便がよく、道の起伏もない環境にあります。散歩や買い物といった日課を行ううえで適した環境にあり、個別に外出の機会を提供できるように取り組みを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年11月19日	評価機関 評価決定日	令和3年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社有愛の経営です。この事業所は、開設から13年目を迎えています。職員の定着率が良く、常勤・非常勤共に長年勤務されている方が多く、職員間の意思疎通もしっかりと図られているため、介護度の高い利用者が増えてきましたが、相互に協力し合いながらケアを行い、利用者の権利を尊重した生活支援に取り組んでいます。立地は、京浜急行「県立大学駅」から、徒歩10分程度の16号線を海側に二筋入った場所で、交通量が少なく、道の起伏もない落ち着いた市街地にあります。

●事業所では、一人ひとりの状態に適した支援を行うための取り組みとして、ケアマネージャのみならず、利用者一人ひとりに対して担当制を設け、介護計画の評価・アセスメント・課題検討においてパート職員もケアマネージャ、常勤職員とともに行うようにしています。全職員が支援内容の作成段階から関わるようにすることで、介護計画の理解と支援内容を把握し、的確な観察力を養うとともに介護意識の向上を図り、一人ひとりに合ったケアサービスを提供できるよう注力しています。

●新たな取り組みとして、昨年度は運営推進会の中で、地域代表や民生委員の方参加の下に他法人のグループホームと交換見学会を実施しました。今後も、同じ地域内にある事業所との親睦や交流を深め、取り組みや課題を共有しながら意見交換を行い、研鑽を図ることで、更なる質の向上と地域の高齢福祉を支えていきたいと考えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、チームケアをかかげ、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。	事業所の理念に「利用者の権利を尊重して自立した生活を守る」と掲げ、明るく家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりの尊厳をママおりながら、自立した生活を送っていただけるようチームケアに注力して取り組んでおり、管理者が個々の課題や能力を的確に把握することで全体的な質の向上につなげています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。また、地域での防災訓練等は、ホーム職員が可能な限り参加するよう努めている。 ※感染症対策のため、本年は未実施。	自治会に加入しており、七夕・夏祭りなどの地域行事に利用者をお連れして参加したり、駐車場をお神輿の休憩所として提供するなど、住み慣れた地域の中で暮らしていることを実感していただけるように支援しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。町内会のお祭り際には、ホーム駐車場を休憩所に使用して頂き、お神輿見学を兼ねて、地域交流を行っている。 ※感染予防にてお散歩のみ実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取り組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。 ※感染症対策のため意見聴取を行い、ホーム職員のみで実施。	民生委員・地域代表・横須賀市職員・地域包括支援センター職員・家族に参加していただき2ヶ月ごとに開催しています。事業所の現状や活動報告を行った後に参加者から質疑応答の時間を設け、意見交換を行っています。地域の方から地域行事や介護相談に乗ったり、市の職員や地域包括支援センター職員からは福祉の動向や地域におけるニーズなどの情報をいただいています。運営推進会議で得られた意見や提案・情報は検討・精査したうえで運営やサービスに反映させています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取り組みなどの確認事項等は、日常的に行うよう努めている。	横須賀市から研修や講習会の案内が届いた際には事務所内に掲示したり、申し送りや職員会議などで周知し、参加を呼び掛けています。市の担当者には運営推進会議への参加をはじめ、グループホーム連絡会、その他必要に応じて連絡を取り合い、相談に乗っていただくなど、協力関係の構築に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置。常勤職員を中心に各職員が理解できるよう、人材育成、指導を行っている。また、身体拘束適正化における指針をもとに、委員会、研修会を定期的実施している。	身体拘束適正化における指針を作成し、それを基に、身体拘束廃止委員会の定期開催、年間研修を実施しています。身体拘束廃止委員会では、研修を踏まえて必要書類の精査、内容の確認などを実施しています。不適切な言動や対応が見受けられた場合には一人の職員の問題として捉えず、全職員に周知・伝達しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、外部研修へ可能な限り参加し、事業所に反映できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分なお理解を得られるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、意見箱を設置し周知し、家族懇親会、運営推進会議、外部評価での家族アンケート結果でのご意見、提案を参考にし改善に努めている。対応等の改善については、各ご家族様に説明を個別に行っている。	利用者の意見・要望については、日々の関わりや表情から汲み取りに務め、個人記録や業務日誌に本人の発した言葉・気づきを記入し、情報を共有しながら利用者の意見・要望に沿った支援に努めています。家族からの意見・要望については、運営推進会議や面会時に伺い、ケア会議で検討した後に運営や介護計画に反映させています。また、家族懇談会、外部評価アンケートの意見も真摯に受け止め、改善につなげています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに2ヶ月に1回のフロア会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。 ※感染症対策のため、会議は必要時のみ実施。	職員からの意見や提案は、申し送り・日々の業務や2ヶ月ごとに開催しているフロア会議の中で意見や提案を吸い上げ、意見交換した後に業務やケアに反映させています。また、事業所全体の課題の共有や解決に向けた取り組みとして常勤会議を開催するなど、積極的に業務改善に取り組んでいます。さらに、管理者は業務中や休憩時間にも職員とのコミュニケーションを図るなど、風通しの良い職場環境づくりに努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者会議（希望事業者）、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるように努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めると共に、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族の方と相談し、可能な限り、個別外出の機会を提供したり、実現できるように努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。	入居時に、家族に差し支えの無い程度に友人などにもお伝えしてくださいと声掛けしたり、年賀状や手紙を希望される方には、必要な支援を行い、なじみの人との関係が継続できるようにしています。また、面会に来られた際には居室に案内するなど、寛いで過ごしていただけるよう配慮しています。なじみの場所への支援については、本人の意向や体調などを考慮しながら家族と相談し、家族の協力も得ながら実現できるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時、相談等の支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様からの情報、アセスメント情報をもとに、ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限りご本人、ご家族の想いが個別ケアとして実施されるよう取り組みを行っている。 感染症対策により、面会、外出制限あり。	入居前面談時に本人、家族から過去の生活歴や既往歴、ADL・IADL、趣味・嗜好、暮らし方の希望について話を聞き、その方の思いや意向に沿った支援を心がけています。利用者の思いや希望は日々のコミュニケーションから把握し、家族の思いや意向は、面会時や電話連絡した際に把握するように努めています。本人・家族から聞き取ったと希望や意向は、職員会議やケアカンファレンスで情報共有しながら、思いや意向を実現するための介護計画作成につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に合わせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう、申し送り、モニタリングの機会を活用し情報の共有に努めている。また、面会時や、状態の変化に合わせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、市意見聴収したものをまとめ、支援の方向性をスタッフ間で共有している。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成しています。初回の介護計画は1ヶ月を目安に経過を観察を行い、入居面談時に得られた情報と差異が無いかなど、細かな情報を収集しています。その後は、申し送りやモニタリングで利用者の心身の状態、職員の気づきを話し合い、ケアの課題などを明確にして共通認識を図り、その方の自立に向けた介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。また、ケアプランの実施経過については、目標達成の評価へとつながるよう改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回)接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。	入居時に協力医療機関について説明し、協力医療機関に切り替えていただくことのメリットなども伝え、本人と家族の意向を尊重して主治医を決めていただいています。事業所の協力医療機関である「さいとう内科クリニック」は月2回の訪問診療があり、歯科医は必要な方のみ契約して、必要に応じて往診に来ていただいています。看護師は週1回の健康管理に来ており、利用者の体調変化が生じた際には、24時間のオンコール体制を整えている主治医に連絡して対応していただいています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、週末のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。	事業所では医療行為を必要としない場合のみ看取りまで行う方針としており、契約時に重度化や終末期における指針を説明して同意書を取り交わしています。心身の状態に変化が見られた場合は主治医に連絡すると共に、家族にも連絡し、主治医・家族・管理者による話し合いの場を設け、家族の意向を尊重して今後の方針を決めています。事業所で看取りを行う場合は、家族・主治医・事業所で連携を取りながら、穏やかな最期を迎えられるよう支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。また、災害時に備えて懐中電灯、カセットコンロ等の備品や食材、水の備蓄、発電機を備えている。また地域で実施される防災訓練には、職員が可能な限り参加。	火災や地震を想定した訓練を中心に、避難誘導、消火、通報訓練を年2回実施し、うち1回は夜間想定、または消防署職員立ち合いの基に行っています。さらに、防災設備業者から火災報知器、通報装置の使用方法についても確認を行い、職員に周知しています。立地上地震や津波に関するマニュアルも作成しており、高台の場所や避難経路について実際に歩いて確認を行っています。地域の防災訓練にも可能な限り参加することで、災害時における相互の役割などについても確認しています。備蓄品については、水や食料、日用品、衛生用品、発電機なども準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。	事業所の理念にも「利用者の権利を尊重して自立した生活を守る」と掲げており、声かけや対応によって利用者の自尊心や尊厳を損なうことのないよう留意しながら一人ひとりに合わせた対応を心がけています。接遇・マナーや人格の尊重については研修のみならず、日常的に確認を行うとともに、必要に応じて責任者、常勤職員による確認を行っています。接遇や対応で気になる場面が見受けられた場合には個別に話をすることで気づきを促すと共に、全職員にも伝えています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方に合ったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態に合わせて、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、盛り付け、片付け等の作業を手伝っていただいている。また適宜、外食の機会を設け、入居者の方が食事の機会が楽しみとなるよう支援している。	食材はレシピ付きで業者から発注し、職員が調理しています。残存能力を維持するためにも、個々の能力に合わせて盛り付けや片付けを手伝っていただくようにしています。また、適宜外食の機会を設けたり、フリーメニューの日を設け、利用者から希望を聞き、提供する機会を設けています。普段とは違う食事を取っていただいたり、旬な食材なども取り入れながら食事を楽しめるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態にあわせたメニュー、また調理法を工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロア内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。	自立している方、介助が必要な方問わず利用者全員の排泄状況に記入し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、定時やタイミングを見計らったトイレ誘導で、排泄の失敗を減らせるように支援しています。一人ひとりの排泄状態をフロア会議で検討し、適切な排泄支援を行うことで、自立排泄につながるよう支援しています。また、排泄トイレにお誘いする際や排泄介助時には、自尊心や尊厳を損なうことのないよう留意しながら対応しています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて、個々の状況にあわせて、時間に追われることなく入浴、清潔保持ができるよう、必要に応じた介助、対応を行っている。なお、安全にゆったりと入浴して頂くための職員配置のため、入浴時間は毎日午後としている。	週2回以上の入浴を基本とし、入浴前にはバイタルチェックを行い、体調や本人の意向を考慮しながら入浴を促しています。気持ちよく入浴できるよう入浴剤を日常的に使用しています。入浴拒否のある方には、日にちを変えたり、時間をあけて声かけ、言葉を変えたりしながらしながら入浴を促しています。また、心身の状態や安全面にも配慮し、必要に応じて2名介助で対応しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。また、薬局とも誤薬等がないよう処方変更等がある場合には、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は、希望に応じてホーム周辺の散歩を行っている。	天気や気候、利用者の体調も考慮しながら、事業所周辺を散歩し、外気に触れる機会を設け、四季の移り変わりを体感していただけるように支援しています。日常的な外出支援は、業務日誌に記録し、外出支援に偏りが生じないように留意しています。現在はコロナウィルスの影響もあり、人が集まる場所などへの外出は制限されていますが、毎年年間を通した外出行事も計画し、車を使って花見など四季折々の外出支援も行っています。外出行事の際に家族の参加希望があれば、直接現地集合にて同行していただくようにしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。※現在対応者なし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。	共用空間は、空調管理や換気をこまめに行い、安全・安心して過ごせるよう動線の確保や家具などの配置にも留意しています。壁には季節感を取り入れた装飾や掲示を行い、季節感と家庭的な雰囲気を大切に環境づくりを心がけています。食卓テーブルだけでなく、ソファや椅子なども設置して、寛いで過ごせる場所も設けています。また、対人関係においても、座席の配置に配慮し、快適に過ごせるように対応しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。	クローゼット、洗面台、エアコン、電動ベッドはすべての居室に完備されています。家庭生活の延長として生活を送っていただけるよう、入居時には使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んでいただくように伝えています。居室には、その方にとっての思い出の品や調度品(カバン、財布、家族写真等)などが持ち込まれ、落ち着いて過ごせる居室作りがされています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームゆう愛

作成日

令和2年11月19日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	ケアプランの作成から実施、評価、再検討までの取組みが、ケアに実践的に活用されるよう取組みを行っていく。	ケアプランに沿った支援が適切に提供できる。	アセスメント、評価、計画までのプロセスを職員間で理解、実践できるように情報共有を密に行う。	6ヶ月
	2	※同上	ご利用者様の想いに沿ったケアが実践できる。	ご利用者様の日々の行動、言動等の詳細把握に努め、ケアプランに反映できるための情報を深め、共有していく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、チームケアをかかげ、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。また、地域での防災訓練等は、ホーム職員が可能な限り参加するよう努めている。 ※感染症対策のため、本年は未実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。町内会のお祭りの際には、ホーム駐車場を休憩所に使用して頂き、お神輿見学を兼ねて、地域交流を行っている。 ※感染予防にてお散歩のみ実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。 ※感染症対策のため意見聴取を行い、ホーム職員のみで実施。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取組みなどの確認事項等は、日常的に行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置。常勤職員を中心に各職員が理解できるよう、人材育成、指導を行っている。また、身体拘束適正化における指針をもとに、委員会、研修会を定期的実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、外部研修へ可能な限り参加し、事業所に反映できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分にご理解を得られるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、意見箱を設置し周知し、家族懇親会、運営推進会議、外部評価での家族アンケート結果でのご意見、提案を参考にし改善に努めている。対応等の改善については、各ご家族様に説明を個別に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに2ヶ月に1回のフロアー会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。 ※感染症対策のため、会議は必要時のみ実施。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者会議（希望事業者）、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるように努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めると共に、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族の方と相談し、可能な限り、個別外出の機会を提供したり、実現できるように努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時、相談等の支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様からの情報、アセスメント情報をもとに、ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限りご本人、ご家族の思いが個別ケアとして実施されるよう取り組みを行っている。 感染症対策により、面会、外出制限あり。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に合わせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう、申し送り、モニタリングの機会を活用し情報の共有に努めている。また、面会時や、状態の変化に合わせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、市意見聴収したものをまとめ、支援の方向性をスタッフ間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。また、ケアプランの実施経過については、目標達成の評価へとつながるよう改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回)接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、週末のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。また、災害時に備えて懐中電灯、カセットコンロ等の備品や食材、水の備蓄、発電機を備えている。また地域で実施される防災訓練には、職員が可能な限り参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方に合ったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態に合わせて、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、盛り付け、片付け等の作業を手伝っていただいている。また適宜、外食の機会を設け、入居者の方が食事の機会が楽しみとなるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態にあわせたメニュー、また調理法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロア内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて、個々の状況にあわせて、時間に追われることなく入浴、清潔保持ができるよう、必要に応じた介助、対応を行っている。なお、安全にゆったりと入浴して頂くための職員配置のため、入浴時間は毎日午後としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。また、薬局とも誤薬等がないよう処方変更等がある場合には、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	雨天時以外は、希望に応じてホーム周辺の散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。※現在対応者なし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームゆう愛

作成日

令和2年11月19日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	ケアプランの作成から実施、評価、再検討までの取組みが、ケアに実践的に活用されるよう取組みを行っていく。	ケアプランに沿った支援が適切に提供できる。	アセスメント、評価、計画までのプロセスを職員間で理解、実践できるように情報共有を密に行う。	6ヶ月
	2	※同上	ご利用者様の想いに沿ったケアが実践できる。	ご利用者様の日々の行動、言動等の詳細把握に努め、ケアプランに反映できるための情報を深め、共有していく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。